

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 S. O. 学年（留学当時） 5年

実習期間 2024年 2月 26日（月）～ 2024年 3月 22日（金）

留学先機関名 Nemours Children's Hospital, Delaware

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
・海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	HND	10:40	現地着	PHL	14:04
	経由地着	ORD	7:20	経由地発	ORD	11:05
復路	現地発	PHL	8:22	日本着	HND	17:45
	経由地着	ORD	9:55	経由地発	ORD	14:10
到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額	移動手段（ Uber ） 所要時間：（ 30 ）分 金額目安：（ 50 ）ドル					

その他留意事項等： Uber と Lyft の値段を比較して選ぶことをお勧めします。現地到着時は Dr. Selbst のご厚意で空港まで車で迎えに来ていただきました。

3 宿泊先について

滞在期間	2024年 2月 23日～ 3月 23日		
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備：（ ）	
	ホテル・アパート	1人部屋	
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生（ ）人	
	Airbnb・シェアハウス	人で共同	ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ）
実習場所までの距離	（ 徒歩 ）で（ 20 ）分		
宿泊費用	ドル /1ヶ月		
住所	1807 Concord Pike (Rte. 202), Wilmington, Delaware		

その他留意事項等： 例年のホテルに宿泊する場合、一部の部屋はフロントを通らずに宿泊者でなくても外から直接アクセスできる位置にありセキュリティ上不安なので事前に「（キーがないとアクセスできない）プールに面している部屋」を希望することをお勧めします。

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）/1 週間

項 目	金 額	内 訳
食 費	\$40	夕食代（朝：ホテル、昼：病院から無料で提供、夕：日本からある程度持参）
学用品購入費	\$0	
交 通 費	\$0	通学は徒歩
そ の 他	\$0	
合 計	\$40	

※平日のみ

(2) 派遣先周辺地域の治安等

ホテル～病院周辺は暗くなってから出歩かなければ特に問題ありません。通学路は交通量が多く車に気をつける必要はあります。Wilmington や Philadelphia のダウンタウンの一部は治安が悪く注意する必要があるので行く場合は現地の人に連れて行ってもらうか、避けるエリアを聞いてから行くようにしましょう。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

外も病院内も横浜より寒く時々雨も降るため、防寒対策をしましょう。一方で、ちょうど暖かくなってくる時期なので 20℃弱の日にも備えた服装を持参すべき。ホテル内にコインランドリーがあるので洗濯ネット・洗剤を持参すると良いでしょう。携帯については、現地で sim カードを購入するのは手間がかかるので日本で電話番号付き・データ量無制限の e-sim を購入することをお勧めします。

5 実習について

実習診療科と主な内容（ 救急、NICU、形成外科、Inpatient unit ）	
実習内容	① 朝 8 時 or 8 時半からの Morning report 参加（30 分 or 1 時間）
	② 昼 12 時からの Noon conference 参加（1 時間）
	③ 救急…レジデント・Physician assistant (PA) ・指導医について救急外来見学、ER カンファ参加（金曜日、2 時間ほど）
	④ NICU…午前は回診参加、午後は処置・レジデントの業務見学
	⑤ 形成外科…オペ室でオペ見学 or 外来見学
	⑥ Inpatient unit…午前は回診参加、午後は学生・レジデントの業務見学

(1) プログラム初日の行動

8:30 病院ロビーで Dr. Selbst と集合し、ID を発行した後に院内を案内していただいた。

9:30 救急外来見学 …レジデント・Physician assistant (PA) ・指導医について患者の診察やプレゼンを見学し、時折問診や身体診察に参加した。

12:00 Noon conference 講義を聞きながら昼食をとった。

13:00 救急外来見学 …午前と同様

17:00 終了

(2) 実習詳細

[1 週目 救急科]

救急科ではウォークインの患者をまず医学生 or レジデント or PA が診察し、上級医に SOAP に沿ってプレゼンする。その後上級医が診察し治療方針が決定する流れとなっている。私は主にレジデント、時々上級医について見学した。基本的に問診・身体診察に参加することができ、希望すれば上級医へのプレゼンを行うことも可能。救急車で運ばれてきた患者は上級医が中心となって診察と治療を行い、私は邪魔にならないように見学した。毎週金曜の ER カンファではクルズ（例：電解質異常）が行われ、救急科の医学生・レジデントと共に参加した。

[2 週目 NICU]

午前中はチーム回診を見学した。チームは医師・Nurse practitioner (NP)・看護師・薬剤師・栄養士から成り、患者の家族を交えて回診が行われる（NICU をまわっている医学生、レジデントはいない）。午後は処置見学（例：ベッドサイドでのオペ、挿管/抜管）やフェロー（レジデントと上級医の間）の業務見学をした。ただ、フェローの業務内容はカルテ記入など事務的作業が中心。

[3 週目 形成外科]

外来見学またはオペ室でオペ見学を行った。外来では上級医についてケロイドから口唇口蓋裂にわたる多彩な症例の術前診察や術後フォローを見学した。身体診察をさせていただく場合もあった。オペ室では見学が主だが、形成外科で主に面倒を見ていただく Dr. Caterson が執刀医の際は術野に入らせていただいた。最初のオペは7時半または8時に始まるため、この週は Morning report に参加しない日もあった。空き時間には Dr. Caterson 自身のキャリアや印象深い症例などについての講義を聞いた。

[4 週目 Inpatient unit]

Inpatient unit では病棟管理を行う。私は救急科から入院してきた General pediatrics の患者の病棟管理を行う Red team に参加した。Inpatient unit の業務は 6:30 から開始し、6:30-8:30 は担当患者の診察、9:00-12:00 はチーム回診、13:00 以降は各々の業務を行うスケジュールとなっている。私はカルテにアクセスできないため担当患者を持つことはなく、1 日だけ 6:30 からレジデントについて担当患者の診察に参加した。その日以外はチーム回診から参加した。チームは上級医・レジデント・医学生・看護師・薬剤師・栄養士から成り患者の家族を交えて回診が行われる。回診では医学生またはレジデントが担当患者のプレゼンを行い、チームと家族で治療方針を決定する。午後は医学生またはレジデントについて業務を見学し、担当患者の診察があれば参加した。NICU と同様医学生とレジデントの業務内容は事務的作業が中心だが、アメリカの医学生の幅広い業務内容を知ることができた。

[Morning conference]

レジデントと医学生が参加する。主にレジデントによる Morning report（症例発表）。水曜日は Grand rounds と呼ばれる外部講師によるバーチャル講義が行われ、金曜日は抄読会や教授たちが症例の診断を考える過程を見学する会などが行われた。基本的には参加型で、医学生・レジ

デントに関わらず自由に意見を投じていた。

[Noon conference]

レジデントと医学生が参加する。毎日違う先生（医師、薬剤師、栄養士等様々な職種）による講義を聞きながら昼食をとる。Morning conferenceと同様参加型。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	6:30	7:30	8:00	9:00	12:00	13:00	15:00 -17:00	17:30	23:00
行動	起床 朝食	出発	Morning conference	選択科 で実習	Noon conference	選択科 で実習	実習 終了	夕食、勉強、 シャワー、 買い物、洗濯 等	就寝

(4) 休日の過ごし方

ニューヨーク観光、フィラデルフィア観光、近所のモールで買い物

(5) 留意事項等（予習しておくことよいこと、困ったこと、持参するとよいもの等）

医学英語が分かると実習内容の理解も質問もしやすいので、勉強していくと良いでしょう。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

ネモラス小児病院で最も素晴らしいと思った点は医学生とレジデントの教育の充実度と質の高さである。毎日 morning conference と noon conference が行われ、内容は症例検討・専門家による講義・抄読会など多岐にわたる。基本的に参加型なので発表者の問いかけに対して医学生・レジデントに関わらず自由に意見を投げ、積極的に質問もしているのが印象的だった。また普段の実習中も上級医やレジデントが大変教育熱心であり、救急科や Inpatient unit では急を要する状況でない限り問診・身体診察・プレゼンなどをお願いすれば快くさせていただけの環境だった。また、どの診療科でも分からないことがないかこまめに気にかけていただいた。全体を通して、どのような質問・意見でもネモラス小児病院の先生方は否定することなく答えていただけだったので質問がしやすく、学びに最適な環境だと感じた。

アメリカの医学生の到達しているレベルの高さも印象的だった。救急科ではまず医学生がウォークインの患者の診察を行いアセスメントや治療方針を考え、上級医にプレゼンを行っていた。医学生はプレゼンに対するフィードバックをもらいカルテを記載し、上級医が自ら診察を行い治療方針が決定した後オーダーを入れたり他科への相談・紹介を行ったりしていた。Inpatient unit でも同様に担当患者の診察・カルテ記載を行い、毎日の回診でプレゼンを行っていた。回診には担当患者の家族も参加するため、患者の家族への説明や質問対応も医学生が中心に行っていた。これらの点は日本と大きく異

なり、日本の初期研修医に近いレベルに達していると感じた。

アメリカでは分業化が進んでいることも印象的だった。アメリカでは nurse practitioner と physician assistant という職業が存在し、業務内容としては医師とほぼ同じであった。担当患者の診察を行い、形成外科では手術も行っていった。Inpatient unit には nurse practitioner からなるチームが存在し、そこへは病状が安定し退院できる患者や軽症なのでケアがあまり必要ない患者が振り分けられるシステムとなっていた。また採血は基本的に看護師が行い、静脈注射を専門とした IV team や人工呼吸器の管理を専門とした respiratory therapist が存在するなど、日本では医師が行う業務の一部をアメリカでは別の専門家が行っていた。このようにアメリカでは分業化による業務の効率化が進んでおり、日本でも医師の働き方改革が近年話題となっているため大変勉強になった。

全体として本プログラムでは毎日新しい学びがあり視野が広がるきっかけとなり、今回学んだことを将来に活かしていきたいと思う。

(2) 今後の展望

本プログラムを通して日本とアメリカの医学教育の違いについて学び、中でも特にアメリカの医学生の到達しているレベルの高さを目の当たりにしたことは大変刺激になった。カルテ記載・オーダー・他科への相談ができるという点だけでなく、患者や患者の家族に対するコミュニケーション力の高さや上級医とアセスメントや治療方針について豊富な知識量を用いて臆せずディスカッションをしている様子は自身の勉学と実習のモチベーションの向上に繋がった。勉強して知識を身につけた上で積極的な姿勢で実習に取り組むことで実りのある実習にしていき、常に主体的に動くことを心がけていこうと思う。

(3) 後輩へのメッセージ

本プログラムは希望に合わせて柔軟にスケジュールを調整していただけるので小児科に興味がある方にはもちろん、4週間間に様々な診療科を見学したいという方にお勧め。将来海外で働くことに興味がある方、普段とは違う海外での臨床実習を通して刺激を受けたい方など、様々な方に挑戦してもらいたい。

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1週間 1ヶ月

項目	金額	内訳
食費	¥5000	夕食代(朝はホテル、昼は病院から無料で提供)
学用品購入費	¥0	
交通費	¥0	通学は徒歩
その他	¥0	
合計	¥5000	

※平日のみ

(2) 派遣先周辺地域の治安等

ホテル～病院周辺の治安は悪くなく、日中徒歩で通学しても問題ない。交通量が多く車の速度も速いのでその点は注意が必要。Wilmington のダウンタウンはやや治安が悪く、多くの店が閉まっている日曜に訪れるのは避けた方が良さそう。

(3) その他留意事項等

横浜よりは一段階寒く時々雨も降るため、防寒対策をしっかりとるべき。

5 実習について

実習診療科と主な内容（ 救急、一般外科、外来 ）	
実習内容	① 朝8時から Morning report に参加
	② 救急…レジデント、PA、指導医について救急外来見学、ER カンファ参加(金曜日、2時間程)
	③ 一般外科…オペ室でオペ見学、レジデントの業務見学
	④ 外来…レジデントについて外来見学

(1) プログラム初日の行動

8:00 病院ロビーで先生に挨拶し、院内を案内してもらった。

8:30 N95 フィッティングテスト、ドラッグスクリーニング(尿検査)を行った。

9:30 救急外来見学 主にプログラムを担当する Selbst 先生について患者の診察やレジデントのプレゼンを見学した。

12:00 昼のカンファレンス 鉛中毒についての講義を聞きながら昼食をとった。

13:00 救急外来見学 午前と同様に見学し、時々レジデントの診察も見せてもらった。

16:30 終了

(2) 実習詳細

救急:

Emergency Department ではレジデントが患者の問診診察を行って上級医にプレゼンし、その後上級医が患者の部屋に行き診察する。主にレジデント、時々上級医にもついて見学した。聴診や触診を一緒にさせてもらえた。つく先生によっては問診もさせてくれた。毎週金曜の

ERカンファではレクチャーや腰椎穿刺の練習会などが行われ、救急科のレジデントと共に参加した。

一般外科:

基本的にオペ室にいてオペ見学を行った。最初の手術は7時半または8時に始まるため、この週のみMorning reportには参加しなかった。鼠径ヘルニアや胃瘻の造設・抜去等短時間で終わる内容が多かったが、時々横隔膜ヘルニアの開胸修復術等も見ることができた。空き時間に手術症例の振り返りや糸結び等指導していただいた。また一度学生と一緒に経鼻胃管や尿道カテーテルの練習会に参加させていただいた。

外来:

一般外来にてプライマリ・ケアの現場を見学した。健康な子どもの定期健診が多く、他に救急外来に来るほどではない軽い風邪症状や皮疹等の主訴で来院する子どももいた。このようなケースでは頼むと問診をさせてもらえた。

昼のカンファレンス:

毎日違う先生が違うテーマで講義するのを学生やレジデントと一緒に聞きながら昼食を食べる。1時間程度。初日にカフェテリアで使えるカードをもらえるので、それを使って昼食を買いカンファ中に食べられる。昼食がその場で出る日もある。講義は基本的に聞くだけだが、時々先生からの質問の投げかけに対し、学生やレジデントが間違いを気にせずどんどん答えている様子が印象的だった。内容は肺炎、ECMO、予防接種など様々で非常に勉強になった。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	6:00	6:45	7:30	8:00		12:00	13:00		16:30	17:00	22:00
行動	起床	朝食	ホテル 出発	実習 開始	選択科 での見 学	カンフ アレン ス・昼 食	実習 再開	選択科 での見 学	実習 終了	買い 物、夕 食、洗 濯、ジ ム等	就寝

(4) 休日の過ごし方

ホテル近辺のスーパーやレストランに行く
ボルチモア、ニューヨーク、フィラデルフィア等の観光
ホテル内のジムで運動する

(5) 留意事項等

医学英語を勉強していけばするほど分かることが増えて面白くなるし、質問もしやすくなると思う。救急外来はシフト制であり日によってメンバーが変わるので、その都度日本から実習に来た生徒である旨を伝えて積極的について行く必要がある。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

本プログラムの魅力として、4週間の中でプライマリ・ケアから救急、手術まで非常に幅広い医療現場を見られる点が挙げられる。これによって軽い風邪から外科治療を要する疾患まで多彩な病態とそれぞれへの対応を学ぶことができた。また日本の大学病院における実習ではあまり見る機会のなかった定期健診も見学し、様々な年齢の子どもの発達について学ぶ非常に良い経験となった。

今回私は小児病院で実習を行う機会を得たことから、小児やその親に対する小児科医としてのコミュニケーションスキルの習得を目標の一つとして掲げていた。実際にこれに関しては多くの学びを得られたと感じた。アメリカに限った話ではないと思うが小児科医は温和で気さくな先生が多く、患児や親と和やかに会話しつつも手際よく診察を進める様子を見ることができた。一般外来では飛び込みのない完全予約制で患者一人当たりに対する診察時間を確保できることもあり、雑談を交えつつ検査結果や治療方法を丁寧に説明していた。親からぶつけられる様々な質問や懸念に時折文献を引用しながら答えていく様子も見られ、このような対応には日頃から研鑽を積む努力が欠かせないと感じた。小児に対する診察についても多くの具体的なテクニックを目の当たりにした。例えば服や靴下のキャラクターを見てその話をする事で緊張をほぐしたり、聴診を嫌がる子どもに「心臓はどこかな、ここかな？」と話しかけながら頭や足に聴診器を当てて笑わせたりといったものである。小児科医を志しているものの小児診察の難しさが不安材料の一つと感じていた私にとって、このような一見些細なことも非常に勉強になった。

2週間見学した救急外来では、毎日先生方の診療やレジデントから上級医へのプレゼン等を見ることで日本と似たような診療の流れがそのまま英語で行われている様子が分かり面白かった。これらが理解できてきた後に実際に自分で問診を行うことができたのは一つの成果であると感じた。また先生に頼んで問診診察を自分で行ったり質問を積極的にしたりするなど、主体的に動いた分だけ面白さや新たな発見が広がることも実感できた。アメリカの医学生は元々の文化的背景や病棟実習での評価が将来の志望科選択などに関わることなどから積極的に質問や意見を発信する姿勢が備わっている様子が見られたが、自らの成長のためにもこのような姿勢を見習うべきだと改めて感じた。

日本とアメリカの医療の違いは数多く見られたが、まず日本であまり見ることのない疾患や背景を持つ患者さんに出会った点が挙げられる。例えば鎌状赤血球症によって体のあちこちに疼痛を生じ、救急外来に駆け込む子どもが多いことは貴重な学びであった。思春期以降の子どもには親のいないところで性交渉歴等に加えて薬物使用歴についても確認しており、中には薬物の使用を当たり前のように打ち明ける子どももいて驚いた。そのような子に対してどのように医師として対応しているのか聞いたところ、ただ止めるよう説得するよりも本人の意向を聞いてカウンセリングにつなげたり、18歳以上などほとんど大人でリスクを承知で使用している場合などには敢えて深入りしなかったりすると回答であり興味深かった。一方でコロナ禍以降うつ病などの精神疾患を抱える子どもが増えているなど、国に関わらず共通して抱えている医療問題についても学んだ。

また、医師や看護師を含む医療スタッフが積極的にお互いファーストネームで呼び合っていた点も印象に残った。特に手術時のタイムアウトでは学生を含めた全員が簡単に自己紹介を行い、互いの名前を把握した上でコミュニケーションを取っていた。日本で多くは見かけない習慣だが、対等な関係作りやそれによって職種に関わらず意見を発信しやすくする環境作りにつ

ながることを教えていただきその重要性が理解できた。

全体として、今回の留学は新たな学びの連続で大変充実しており、自らの視野を大きく広げるものであった。このような貴重な機会をいただいたことに心から感謝し、今後の成長の糧としていきたい。

(2) 今後の展望

今回の留学では自分から問診診察など主体的に関わればその分発見や疑問が増え、積極的に質問していくことで学びが大きく広がることを実感した。そこで直近の目標として、今後の実習では疑問点を探しながら見学することを心掛け、可能な範囲で主体的に参加する意識を常に持ちたいと考えるようになった。

日本とはまた違う学びの広がりを実感した一方で、Observation というプログラムでの立場上できることが限られていたことや自身の英語力不足などからもどかしさを感じる場面もあり、更に勉強を重ねてもう一度海外の医療現場で学びたいという思いも改めて持つようになった。海外でも医師として活躍できるレベルまで自身の英語力や医学のスキルを高めていきたいと身が引き締まった。

(3) 後輩へのメッセージ

海外の医療現場を実際に見る経験から学べることは本当に多く、視野が大きく開けると思う。将来海外で働きたい人に限らず少しでも興味のある人は是非挑戦してみてほしい。Nemours 小児病院は複数の科を見学でき、希望次第で柔軟に調整してくれるので様々な現場を体験したい人におすすめする。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 T. A. 学年（留学当時） 5年

実習期間 2023年 2月 27日（月）～ 2023年 3月 24日（金）

留学先機関名 Nemours Children's Hospital

1 プログラム内容について

(1) 参加した留学プログラム

- ・海外リサーチ・クラークシップ 海外クリニカル・クラークシップ
- ・その他短期派遣プログラム（ ）

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	HND	10:40	現地着	PHL	15:45
	経由地着	ORD(Chicago)	7:25	経由地発	ORD	13:00
復路	現地発	PHL	15:55	日本着	HND	4:45
	経由地着	LAX	6:42	経由地発	LAX	12:54
到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額	移動手段（ Lyft ） 所要時間：（ 30 ）分 金額目安：（約 5000 ）円・（ 35 ）ドル・ユーロ・（ ）					

留意事項等

航空券は3か月前には取りましょう

3 宿泊先について

滞在期間	2023年 2月 25日～ 3月 25日	
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備：（ ）
	ホテル・アパート	1人部屋
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生（ ）人
	Airbnb・シェアハウス	人で共同 ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ）
実習場所までの距離	（ 徒歩 ）で（ 20 ）分	
宿泊費用	9000円 / 1日・1週間・1ヶ月・（ 28 ）日間	
住所	1807 Concord Pike #202, Wilmington, DE 19803	

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1週間（平日のみ）

項目	金額	内訳
食費	¥5000	平日の夕食(平日お昼は無料!)
学用品購入費	¥0	
交通費	¥0	病院まで徒歩(20分)
その他	¥0	
合計	¥5000	

¥5000（平日・食費のみ）

(2) 派遣先周辺地域の治安等

Wilmington のダウンタウンには危険なエリアがあるようだが、ホテルの周囲は安全だった。ホテルは大きな通りに面しており、道沿いにスーパーやレストランなどがある。暗くなってからもお店があるので人通り、明るさもあった。食事や生活用品の買い物はホテル周囲のお店で基本的に賄えるので便利。

病院までの道のりはアストラゼネカなどの企業の建物があり、仕事に来る人くらいしかおらず安全。ホテル関係者・病院関係者ともこの辺は安全とのこと。

(3) その他留意事項等

ホテルのHP等には記載ないが、ホテル内にコインランドリーあり。

5 実習について

実習診療科と主な内容（小児科の Observation）	
実習内容	① Inpatient Unit(1w)——9時から12時まで回診、午後は処置見学等
	② Outpatient Clinic(1w)——外来見学
	③ Emergency Department(2w)——救急外来見学
	④ Pediatric GI——内視鏡見学、回診等
	(①～④いずれの場合も毎朝・毎昼にレジデント向けのカンファレンス参加)

(1) プログラム初日の行動

8:00 受け入れの窓口になってくださっている Dr. Selbst とロビーで待ち合わせ

病院施設の案内後、各自の初週の実習先へ紹介

9:00 Inpatient Unit チームに合流し、回診

12:00 カンファレンス参加

13:00 入院患者の診察の見学など

16:30 解散

(2) 実習詳細

① Inpatient unit:

基本的に Emergency Department から入院してきた患者を担当する。Inpatient Unit の中でも

専門領域ごとにチームに分かれており、各チーム attending1 名と resident・fellow 数名で構成されている。私は Dr. Slovin (attending doctor) の Blue Team (general pediatrics) で実習させていただいた。具体的なスケジュールとしては、午前中は 8 時(または 8 時半)からのモーニングレポートの後、9 時から 12 時まで入院患者の回診を行った。レジデント一人当たり 4, 5 人の患者を担当し、チーム全体で 15~20 人くらいの患者がいた。私は、午前中は回診参加、担当患者のプレゼンを行った。午後は resident の患者の診察に同行したり、その時に話題になったトピックに関する短いクルズスをしていただいたりした。

② Outpatient Clinic :

患者は 1 歳児検診などの定期健診の患者や喘息、ウイルス性胃腸炎、皮膚炎などのコモンな疾患の患者が多かった。基本的には 9 時から 17 時(最後の患者が終わればもう少し早く)までである。実習の内容としては、レジデントの外来に同行させていただき外来見学をした。症例によっては問診、身体診察、アテンディングへのプレゼンまで行った。

③ Emergency Department :

ED は A(重症)~E(軽症)の 5 つの zone に分類されており、私は Dr. Selbst のいる B zone で主に実習させていただいた。基本的にはウォークインの患者を診るが、Outpatient よりも重症な患者が多い。ここでも同様に問診・診察をさせていただいた。スケジュールも基本的には 9 時~17 時で他と同程度であった。

④ Pediatric GI :

inpatient unit のチームの一つで消化器疾患を扱う。内視鏡検査の見学や回診などに参加した。基本的には GI チームのレジデントと行動を共にしていたが、何か処置などがあるときは別のチームのレジデントが声をかけてくれたため、呼吸器・腎臓・内分泌などの患者も診察することができた。スケジュールは①と同様。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	6:30	7:00	7:30	8:00	9:00	12:00		16:30
行動	起床	朝食	出発	Morning report	回診他	conference	処置見学等	解散

(4) 休日の過ごし方

- 1 週目はワシントン DC 近くに住む友人を訪ねた。
- 2 週目は NY 観光。
- 3 週目は(土)は前述の友人と、(日)は窓口となってくださっている Dr. Selbst にフィラデルフィアを案内していただいた。

(5) 留意事項等

- ・医療英単語の勉強はやっておいた方が良い
- ・会話の練習もしておいた方が良い

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

今回の留学は Observation であったので患者さんと直接かかわる機会はありませんでしたが、実際には Inpatient Unit では日本での実習のように回診の際に担当患者のプレゼン、Outpatient や ED では問診・診察・attending へのプレゼンもさせていただき主体的にチームに参加することができました。

Inpatient でのプレゼンでは、求められることや形式の違いはあれ、大まかな内容は日本と大きくは変わらないと感じた。新患の際は現病歴や既往歴などから今朝の様子まで細かく発表し、安定した入院患者では one-liner でプレゼンするよう求められていた。回診の中で感じた最大の違いは、一人の患者の回診にかかる時間と、保護者が回診に参加する点である。回診のプレゼンには基本的には保護者も参加し、長いときには 1 人の患者に対して 30 分以上かけることもあった。患者・家族への説明、患者自身の意思決定を非常に重視していることが感じられた。

問診はオープンクエスチョンから入り、徐々に的を絞ったクローズドクエスチョンにしていくという流れは、日本の OSCE で学んだことと同様だった。違いとしては、患者側が先に診察室にいて医師がその部屋に入ってくる形式や、マリファナや薬物の使用、自宅の銃の有無を聞いていた点が印象的だった。

また、4 週間を通して実習中は基本的にレジデントと行動を共にしていたため、米国のレジデントの働き方などもわかってよかった。

私が今回の実習で最も素晴らしいと感じた点は教育の質の高さである。毎朝・昼にはレジデントが主体となったカンファレンスあり、症例検討やテーマごとのレクチャーをレジデント同士で行う。その場には attending も参加しており、コメントやフィードバックも受けられるシステムになっている。Nemours 自体がレジデントも多く、教育病院としての役割も大きいことから、病院全体として教育的な雰囲気があり、学生の私にも非常に丁寧に指導して下さった。

レジデントだけでなく学生への教育のレベルも高いと感じた。フィラデルフィアにある Thomas Jefferson 大学からの学生も実習に多く受け入れており、彼らとも交流する中で日本との違いを感じる事ができた。彼らはチームの一員として患者さんの診察やカルテの記載が許されており、より主体的に学ぶことができているように感じた。学生に、より多くの権限を与えることは上級医の責任を増やすことになると考えられるが、医療の分業が進んでいる米国だからこそ、医師が業務のみに忙殺されるようなことはなく、高い教育のレベルを保っているのではないかと感じた。

(2) 今後の展望

現時点では、今後は日本で初期研修を行い、その後も日本国内で医師としての研鑽を積んでいきたいと考えている。今回の留学で、医師側からの視点としては米国の労働環境や待遇、教育環境などはやはり日本と比べて優れていると感じた。患者側の視点としては、患者ごとの十分なスペースの確保、医療者の丁寧な説明、予約・検査結果の通知・困ったことがあった際に相談できるチャットなどを含む病院のアプリなど、サービスが充実している印象を受けた。ハード面でもソフト面でも日本が米国に学ぶべきことは多くあると感じた。

ただ、その一方で日本の国民皆保険などの医療制度や、衛生環境・治安・食事など日々の生活を送る上での日本の良さを改めて知ることのできる良い機会にもなった。今回の留学は、将

来的に米国で臨床医になることを見据えて臨んだが、逆に、日本に生まれ、日本で医学教育を受けた身として日本の医学に貢献したいという気持ちが強くなった。

留学といってもその機会は臨床だけではない。現地で研究留学をしている日本人医師にお会いできたこともあり、研究留学という選択肢も魅力的に感じた。また、留学以外にも、国際学会の発表の機会など英語を使用する機会は少なくないと考えられ、英語学習に関しては今後も継続していきたい。

1 か月という短い期間ではあったがアメリカの医療の現場を実際に体験することができたことは非常に良い機会となった。違う考え方、システムを知り、別の視点を持つことができたことは今後につながる経験であったと考えている。

今回の留学で学んだことを今後の学生生活、医師人生に大いに活かしていきたい。

(3) 後輩へのメッセージ

小児科やジェネラルな医療に興味がある人に向いていると思う。実習する科は事前に希望を聞いていただけ（私は実習途中に変更していただいた）ので、自分の興味に合わせて選択できる点は魅力的だと思う。

Observation ではあるが患者さんを担当させていただいたり、診察や問診、プレゼンなどもさせていただいたりできるので、ただ見ているだけで終わってしまうということはない。そこまで重症な患者が多くないからこそ学生にもできることが大きいともいえるかもしれない。お願いをすれば大体のことはやらせてくれるので積極的に参加すれば得られるものは大きいと思う。また、小児科は比較的、米国国外からの医師の受け入れも多い科であり attending や resident の中にも国外からの人も少なくなかった。実際に英語が母国語でない医師がどのように働いているのかも見る点も米国で臨床医になることを考えている方には良い経験になると思う。